

旧小樽地方貯金局竣工70年記念特別展

逓信・郵政建築展

— 源流と発展 —

2022年8月6日(土)～10月2日(日)

TOKYO TEISHIN HOSPITAL
NURSES TRAINING SCHOOL

監修 安永三郎 観音克平

資料提供

郵政博物館

株式会社NTTファシリティーズ

郵政建築アーカイブズ

市立小樽文学館

開館時間 9時30分～17時(最終入館16時30分)

休館日 月曜日(9月19日を除く)

8月12日(金)、9月20日(火)・21日(水)・27日(火)

入館料 一般300円 高校生・市内在住70歳以上150円
中学生以下無料

旧小樽地方貯金局竣工 70 年記念特別展

通信・郵政建築展 —源流と発展—

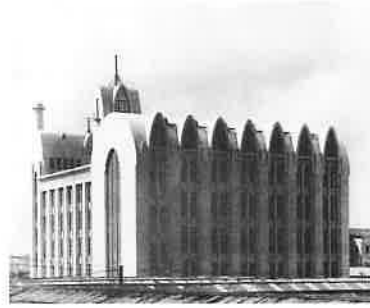
小樽文学館・美術館（旧小樽地方貯金局）は昭和27年（1952）竣工で今年70周年を迎えますが、戦後の混乱期を経て通信・郵政建築の復興を実現した歴史的建築です。戦前の通信省営繕課、その後裔であり昭和24年（1949）の2省分離後の郵政省建築部は、日本の公共建築を牽引してきました。吉田鉄郎、山田守、そして小樽地方貯金局設計者、小坂秀雄らが代表的建築家です。彼らがめざした近代建築は合理主義・機能主義・そして世界で通用する国際主義を共通の理念としていました。後年にはその発展形として、日本の伝統的建築を昇華した「底の建築」が生み出されます。この小樽地方貯金局、そして小樽郵便局庁舎を含め、全国の代表的通信・郵政建築の歴史的意義をふり返り、建築家たちが追求した「公共の場のかたち」について考える特別展です。



京都郵便電信局（現・中京郵便局）1902



京都中央電話局西陣分局 1921



東京中央電信局 1925



大阪東郵便局 1931



東京中央郵便局 1931



大阪中央郵便局 1939



東京通信病院 1937



小樽地方貯金局 1952



東京空港郵便局 1955



外務省庁舎 1960



通信総合博物館 1964



郵政省本省 1969



札幌中央郵便局 1985

